

一般言語学論叢

第25号

2022年

【論文】

文字成立の分類に関する試論

..... 木村 規高・原 将吾・池田 潤 (1)

【研究ノート】

多言語話者であるフィリピン人日本語学習者の母音知覚について

—タガログ語・北部イロカノ語・カンカナウイ語話者を例に—

..... 丸島 歩 (75)

投稿規程..... (111)

規約..... (112)

.....

投稿規程

1. **投稿資格** 投稿は会員および会員から推薦を受けた者から募る。
2. **投稿原稿** 投稿原稿は他の雑誌などで公開されていないものに限る。口頭発表をまとめたもの、紀要などに載ったものを改訂したものは、その旨を記載すること。投稿原稿は、研究論文及び研究ノートとする。研究論文は、オリジナリティーのある新しい知見を含んだものでなければならない。
3. **使用言語** 日本語及び英語とする。
4. **特殊文字ならびに日本語のローマ字化** ギリシア語・キリール文字以外の特殊文字はローマ字化する。音声字母は、国際音声字母 (International Phonetic Alphabet) を用いる。日本語のローマ字化は、1 つの方式を統一的に使用する。
5. **参照文献** 参照文献は、本文または注釈において引用または言及したもののみを論文の末尾にまとめる。単行本、論文集ならびに論文は、下記の様式で記載すること。
単行本、論文集:
著(編)者 発行年 書籍名 (和文の場合『』で、欧文の場合イタリックまたは下線で修飾) 発行地 (和文の場合不要) 発行所 (出版社または研究機関)
論文:
著(編)者 発行年 論文名 (和文の場合「」で、欧文の場合‘ ’で囲む。) 収録雑誌名
または収録書籍名 雑誌の号数 記載ページ
6. **提出様式** 電子媒体 (MS Word あるいは LaTeX) での提出のみを認める。紙媒体での提出は認めない。MS Word ファイルあるいは LaTeX のソースファイルとともに PDF ファイルを提出すること。提出する原稿はホームページから入手できるスタイルシート、テンプレート、最終号の論文等を参考にして、そのまま入稿できる形で、ホームページに指定されたアドレスに添付ファイルで提出すること。また、メール本文に原稿の種類 (研究論文か研究ノートか) を記すこと。
7. **採否** 投稿論文は 2 名の匿名の査読者により審査される。投稿原稿の採否は査読者の審査を受けた形で編集部が決定する。

(2018 年月 12 日 31 日改訂)

筑波一般言語学研究会規約

第1条 (名称)

本会の名称は「筑波一般言語学研究会」とする。

第2条 (目的)

本会は、言語に関する学術的研究成果の発表等を行い、言語研究の発展に寄与することを目的とする。

第3条 (事業)

本会は、以下の事業を行う。

1. 毎年一回『一般言語学論叢』の発行
2. その他必要な事業

第4条 (事務局)

本会の事務局を、山口市吉田 1677-1 山口大学人文学部言語情報学乾研究室気付に置く。

第5条 (会員)

本会は言語研究に熱意を有し、本会規約を了承するものをもって構成する。

第6条 (役員)

本会には会員の互選により次の役員を置く。会長 1 名、書記・会計ほか若干名。役員任期は1年とする。

第7条 (会費)

会員の会費は年額 10,000 円とする。

第8条 (経費)

本会の経費は、会費、寄付金等を以てこれに当てる。

第9条 (規約の改正変更)

本会規約の改正変更には、正会員の3分の2以上の賛同を必要とする。

付則

本規約は1998年10月31日発効の規約を2005年7月30日に改正したもので、2005年8月1日より発効する。

編集後記

『一般言語学論叢』25号をお送りします。今号では2本の投稿があり、文字に関する論文と音声に関する研究ノートが1編ずつ収録されています。特に今回の論考は一般言語学の研究分野に貢献できるものであると自負していますので、ご一読をお勧めします。次回号でも活発な投稿を期待しています。

快く査読を引き受けてくださった方々、編集作業に協力して下さった方々にこの場を借りて深く感謝します。(H.J.K)

一般言語学論叢 第25号

編集委員：高慧禎（編集長）・佐々木冠・山本秀樹

2022年12月31日発行

発行者 筑波一般言語学研究会（代表 池田潤）

〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻

池田潤研究室気付

Tel/Fax: 029-853-4410

E-mail: ikedajun.fm@u.tsukuba.ac.jp

URL: <http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/ippan/JGL/>

Journal of General Linguistics

Vol. 25

2022

CONTENTS

Articles

Noritaka KIMURA, Shogo HARA and Jun IKEDA: A Discussion on the Formation of Writing Systems and its Classifications 1

Notes

Ayumi MARUSHIMA: Perception of Japanese Language Vowels by a Filipino Multilingual Speaker: A Tagalog, Northern Ilocano, and Kankanaey Speaker as an Example 75

Information for Contributors..... 111

Rules and Regulations..... 112

Published by
Tsukuba Linguistic Circle

c/o Ikeda Laboratory, Doctoral Program in Literature and Linguistics,
University of Tsukuba
1-1-1 Tennodai, Tsukuba
Ibaraki 305-8571, Japan